

書式Ⅶ—9 先天性握り母指（脳性麻痺は除く）の機能評価表

カルテNo. (ID)	氏名	男・女	年齢	利き手	右・左	患側	右・左・両側
			歳				
診断名							
検者名	(医師・OT・PT)	検査日	年 月 日	初診日	年 月 日		
				手術日	年 月 日		

I. 形態的分類

A. 関節可動域（MP関節）

	自動		他動	
	右	左	右	左
伸展／屈曲	／	／	／	／

B. 皮膚性拘縮の有無

1. 無
2. 有

C. 伸筋腱形成不全の有無

1. 無
2. 有
診断の根拠：
3. 不明

D. X線所見の異常の有無

1. 無
2. 有

E. 変形の状態

CM関節	内転位	無・有（軽・中・高）
MP関節	屈曲位	無・有（軽・中・高）
IP関節	屈曲位	無・有（軽・中・高）

F. 合併先天異常

風車翼手	関節拘縮症 arthrogyriposis
その他（	）

II. 術後機能評価

- A. 骨・関節の状態：母指多指症の項（P27）参照
- B. 皮膚の状態：母指多指症の項（P27）参照
- C. 手の基本的動作：共通書式5（P73）を使用する。
- D. 関節可動域：共通書式2（P70）を使用する。

先天異常手の機能評価表の記載法

「手の大きさ」は共通書式3 (P71), 「関節可動域」は共通書式2 (P70), 「手の基本的動作」は共通書式5 (P73, 74) を使用してこれに記入する。

「つまみと握り」について, 指尖つまみ, 指腹つまみ, 側方つまみ, 強い握り, 巧緻握り, ひっかけ握りはP74を参照する。

I. 母指多指症

術後(余剰指切除, 矯正骨切りなど)の外表面態およびX線所見は図に斜線を入れて記載する。

II. 合指症

術後の所見には, 指間水かき, 変形および瘢痕拘縮, 植皮の部位, 爪の変形などを記入する。

III. 合短指症

術後の機能評価は合指症のそれを参照して評価する。

IV. 裂手症

X線所見は背側から, 外表面態は手掌面を記入する。

V. 先天性絞扼輪症候群

術後の所見には骨欠損の状態, 絞扼輪の状態, リンパ浮腫の状態などを記入する。

VI. 複雑な形態の先天異常手の症例は共通書式13 (P66) に写真を貼付する。

VII. 橈側列形成不全の橈骨の欠損範囲は1/4以下, 1/4~2/4, 2/4~3/4, 3/4~全欠損に分ける。

VIII. 巨指症

下記の分類を参考にして症候群名を記入する。

分類

A. 手に限局

B. 症候群に伴う異常 (1. ~ 6. はTemtamyに準ず.)

1. Congenital partial gigantism
2. Von Recklinghausen disease (neurofibromatosis)
3. Ollier disease (enchondromatosis)
4. Maffucci syndrome (enchondromatosis and hemangiomata)
5. Klippel-Trenaunay-Weber syndrome (osteohypertrophy)
6. Congenital lymphedema (Milroy disease)
7. Dejerine-Sottas disease
8. Hyperpituitarism
9. Others

Temtamy S A, et al: Macrodactyly, hemihypertrophy and connective tissue nevi; Report of a new syndrome and review of the literature., J. Pediat, 89: 924-927, 1976.